

# 小田の池湿原及び周辺地域の植物

## 湿原の植物

小田の池の湿原は、コアナミズゴケなどのミズゴケ類、ヌマクロボスゲなどのスゲ類、スマガヤ、ヨシなどのイネ科の植物が群生し、その遺体が腐らないで、長い年月かかって（今、分かっている年数で約6000年）、厚い泥炭層をつくりました。3mを超える所もあります。

この泥炭層の湿原に、多くの湿地植物が住みついています。火山灰に覆われて乾燥したりして、あるいは途中で絶滅してしまったものもあるかも知れません。今なお、生育し続けているのは、湿原という栄養の少ない（貧栄養）過湿な環境が保たれてきたからです。

池や周辺の草原に住みついた植物には、分布の上からみると、次のような特徴をもつものがみられます。

○寒冷な北国からやって来て住みついた湿地植物—北方系湿原植物。

○海を隔てた中国大陸や朝鮮半島から分布を広め住みついた植物—大陸系遺存植物。

○地球上で、九州だけしかみられない九州固有種の植物。

こんな植物が、小田の池や湿原、周辺の草原に生育しているということは、この一帯の自然の様子を知る重要な手がかりになります。池の水を汚さないように、植物を痛めないようにして大切に保護したいものです。



カサスゲ

## 池の植物

小田の池は水深が浅いので、岸辺や湿原の周りにはヨシやフトイ、クログワイ、カンガレイ、カサスゲ、オニナルコスゲ、チゴザサなどが群生しています。池の深さによってその生育の様子が違ってきます。池の水が減って岸辺の土や泥が現れると、ヒメホタルイやアゼトウガラシ、アゼムシロなどの群落もみられます。

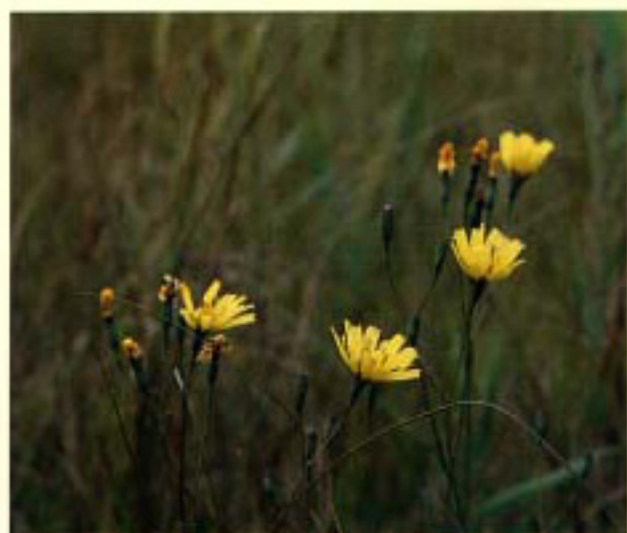


池に群生するヨシ・フトイなど

## 大陸系遺存植物

氷河期が訪れて気温が下がって海面が低くなり、九州や西日本と中国大陸や朝鮮半島が陸続きになったときがありました。大陸の草原植物は、冬の季節風に種子を飛ばされながら、それを渡って東へ分布を広げていきました。その時、九州などでは火山の活動が盛んで、大陸の草原植物にとっては、環境が似ていて住みよかったようです。今は海を隔てて大陸と離れてしまいました。

- ヒメユリ(ユリ科)      ○ツルフジバカマ(マメ科)
- キスミレ(スミレ科)      ○ホクチアザミ(キク科)
- タムラソウ(キク科)      ○ヒゴシオシ(キク科)
- チョウセンスイラン(キク科)など



チョウセンスイラン



## 寒冷地の北方要素の植物

今から2万年前から数十万年前までの間、気温の低い氷河期が何度か訪れてきました。そして山や里は雪や氷に閉ざされてしまいました。そんなとき、寒冷な北国の湿地植物が南下して来たのです。東北地方や中部地方に分布している植物が、南の方に飛び飛びに分布し、この小田の池湿原にも生育しているのです。

- コアナミズゴケやハリミズゴケ (ミズゴケ類)
- ミタケスゲ(カヤツリグサ科)
- ミカヅキグサ(カヤツリグサ科)
- オニナルコスゲ(カヤツリグサ科)
- ヌマガヤ(イネ科)
- ナガボノシロワレモコウ(バラ科)
- ミツガシワ(リンドウ科)
- コタヌキモ(タヌキモ科)
- サワギキョウ(キキョウ科)など



ミツガシワ



サワギキョウ

## 九州固有植物

地球上では沢山の植物の種類があります。その中で九州だけしかみられない分布の狭い植物があります。何かの原因で無くなってしまうと、この地球上から絶滅してしまうことになります。この中には、大分県の固有植物もあります。



ツクシフウロ

- ツクシショウジョウバカマ(ユリ科)
- ツクシフウロ(フウロソウ科)
- ツクシボウフウ(セリ科)ー大分県の固有種ー
- ツクシゼリ(セリ科)
- ツクシシオガマ(ゴマノハグサ科)など